

牧草園藝



謹賀新年

技術レベルの高度化



新しい年を迎えて、世界は更に高度な技術革新時代へと進んでいます。

日進月歩のエレクトロニクスは、オートメ化、ロボット化により、あらゆる分野の能率を高め、ジェット機から人工衛星、スペースシャトルと、すべてのことが地球規模・宇宙規模で新しい展開を見せ、石炭・石油から脱皮した新しいエネルギー源への挑戦が始まり、神秘のベールに包まれた動・植物界にもバイオテクノロジーによる予想外の新技術が脚光を浴びそうです。

21世紀を目前にした人類は、今や技術レベルの高度化による新しい価値観を生み出してゆこうとしています。

このことは酪農技術においても例外ではありません。凍結精液の国際的な流通や受精卵移植技術を背景とした高能力牛の普及、高能率な酪農機器開発による経営規模拡大と労働生産性向上の同時具体化、経営分析や飼養管理のコンピューター化による年間搾乳量8t以上の乳牛群の維持等、このような酪農技術レベルの高度化は、負債の重圧から解放された明るい経営への道を、きっと拓いてくれることでしょう。

そして今年こそは、新しい世代の健康食品であり、需要の増加している牛乳・乳製品を生産するものとして、この技術革新時代のもと、高度化する新技術を積極的にとり入れて、牛乳生産の効率を高め、コストを押え、品質を維持して、国際競争力や他食品との競争力を蓄え、消費拡大にも不安のない希望溢れる酪農経営に、もう一工夫を凝らしたいものです。

しかし、高度な技術を完全に活用するためには、その技術の中味をよく知ることと、乳牛の本質をわきまえた基礎づくりが前提として必要です。

- 輪作と石灰・有機物を深く施用する土づくり。
- 適地適作の牧草・飼料作物選択による草づくり。
- 運動・換気・採光・清潔など乳牛のための愛情あふれる環境づくり。

この基礎づくりが不十分では、最新の高度な技術も、その成果を期待することは出来ないでしょう。

雪印種苗は、今年も「牧草と園芸」を通じ、酪農畜産のみならず、園芸作物についても、高度化する世界の技術情報を皆様にお届けし、併せて基礎づくりに必要な優れた種苗・飼料の安定供給に努力を続けたいと、決意を新たにしています。

ここに、読者の皆様の新春を寿ぎ、ますますのご発展を祈念いたしますと共に、本年も変らざるご愛顧を賜りますようお願い申しあげ、年頭のご挨拶といたします。

昭和59年 元旦

雪印種苗株式会社

取締役社長

中野富雄